さんけん新聞

発　行
特例認定
ＮＰＯ法人
三段峡―太田川
流域研究会
（代表・本宮炎）

〒731－3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木1734
☎090・
3421・3046
◇
https://sanken-hiroshima.org/

大雨被害甚大

土砂崩れ多発 観光に打撃

ぐるの瀬 早期の開通見通せず

八月九日の台風九号、十二日から続いた豪雨が重なり、三段峡ではあちこちで落石や倒木、土砂崩れが発生し、峡内への立ち入りは一時、全面禁止になった。ぐるの瀬は早期開通が見通せない状態。国道一九一号は三段峡入り口別れの戸河内寄りで発生した土砂崩れにより三十一日まで通行止めになり、夏の観光は大きな打撃を受けた。

大規模な土砂崩れに覆われたぐるの瀬の探勝路

特にぐるの瀬の被害が大規模で、土砂の撤去や壁面補修のため工期が長引くと予想され、早期開通が見通せない。事業者からは正面口―ぐるの瀬手前の石樋間の通行許可を求める声があり、安芸太田町は県と協議したいとしている。

三段峡ホテルやらぴっとカヤックスクールなど事業者は国道通行止め期間中、営業停止を余儀なくされて夏の観光シーズンに大打撃となった。八月二十七日には広島県に新型コロナウイルス感染の緊急事態宣言が出され、追い打ちをかけた。

国道一九一号は九月一日に片側通行となり、三段峡内の水梨口―猿飛間および三段滝間は同町が確認し、通行規制は解除された。

正面口―水梨口間の通行規制はぐるの瀬のほか、蛇杉橋近くにもあり、中間点の黒淵荘の営業再開はめどが立っていない。同区間は峡内の主要コースであり、三段峡の秋の観光全体へ大きな影響が心配される。

さんけんも三段峡をフィールドにした研修やエコツアーの実施に影響がある。

◇　◇

深入山調査など中止

さんけんは八月に予定していた次のイベントを中止した。深入山希少チョウ類の調査（十五日、二十三日）▽お墓の大和との協働イベント「親子で楽しむ！本気の川遊び」（十五日、十六日、二十八日）▽太田川流域会議の学校間交流事業（三十日）。チョウ類は十四日、さんけん会員の上野吉雄さんが独自調査し、ゴマシジミ五頭を確認した。お墓の大和の和崎伸社長は「秋や冬、何かイベントをしたい」と意欲を見せている。

看板を手にする制作したお墓の大和の和崎伸社長（右）と本宮炎理事長

事務所の看板 一新

黒地の板に白文字の手書きだったさんけん事務所の看板が、木板にさんけんのロゴがレイアウトされ、洒落たデザインに一新した。子供向けイベントで協働している「お墓の大和」からの寄付で、墓石に文字を彫る技術で制作された。

一口メモ

▼地球の営み

V字谷の三段峡は豪雨や積雪で毎年のように崖崩れを起こす。浸食期間は一六〇〇万年と見積もられているが、節理や小断層、風化した岩が崩れ、特異な景観となった。今回の被害も一瞬の出来事だろう。土砂崩れが地球の営みだとすれば、その都度、道を直す人間も景観の一部と言える。

南峰と歩く ㊾ 王城（おうじょう）

断崖の上「神秘の気に満ちた所」

水梨口から下流へ約七〇〇㍍、柴堰の左岸の断崖上にあるのが王城である。探勝路からは見えないし、踏み込むのは困難だ。対岸の地獄谷や大岳一帯の奇岩群の好展望地だとされる。

斎藤露翠が戦後まとめた「三段峡開発史」には王城の伝説が付録されている。

■恋人の正体は黒蛇

かつてこの地には王の城があり、姫がいた。毎夜通ってくる恋人の正体が黒蛇だと知った乳母が、弓の名手の夫と退治する話である。開発史には露翠が体験した大蛇にまつわる奇怪な事実談も載る。興味深く、いつか稿を改めたい。

熊南峰は王城を「峡中最も神秘の気に満ちた所」で、樹々や苔むした巨岩が築庭のような美しさを見せるが、地元の人は名を聞くだけで緊張するほど恐れる地とする。

■険難の地 写真なし

岩の風景に対する「感度」は、現代と比較して南峰の頃は高い。前々号で述べた南画の影響に加え、神の依代（よりしろ）として岩を神聖視する名残と考える。

知人で王城に立ったのは三段峡ホテルの高下務氏だけだ。南峰の足跡を描いた「源流」制作時、カメラマンは途中引き返した。私も不可能と悟り、知人にドローン撮影を頼んだが、神風？に煽られ墜落。王城の実像は謎だ。（松尾　俊孝）

厄介者を資源に

七人が葦刈り

家庭の残飯を分解して堆肥化するコンポストの基材や畑の肥料に使用する葦を刈る作業が八月八日、龍頭峡の筒賀木工陶芸館裏の川であり、七人が鎌を手に二時間汗を流した。

葦を使ったコンポストは生原商店（広島市西区）のオンラインショップで販売され、九月からは広島県内の無印良品の店舗でも取り扱われる。

河原の厄介者になっている葦を有効活用し、川の環境保全を目指す事業で、さんけんは今年度試験的に取り組む。広島県温暖化対策活動促進の補助事業。

吉和郷と上殿

希少植物を調査

植物愛好家の折井夫妻の案内で八月四日、本宮宏美事務局長とさんけん会員の上野吉雄さんが同行して、三段峡近くの安芸太田町吉和郷と上殿の両地区で希少植物を調査した。

上殿の太田川沿いの裏道脇では、ツクバネとクサボタンを確認した。ツクバネはビャクダン科の落葉低木でツガやヒノキなどの針葉樹の根に寄生する半寄生植物。実は羽根つき遊びの羽根に似ている。折井さんによると広島県内で見られるのは少ないと言う。

この人

三段峡の若い“新戦力”

栗栖　汐音さん

安芸太田町下殿河内月の子生まれ、今春加計高校を卒業し、アルバイトをしていたのが縁で三段峡ホテルに就職した社会人１年生。エクセル準１級など３種の資格を持ち、三段峡の日常を発信している。

高校２年のときから深入山の調査や「楽しい100人」などのイベントを手伝っている。そのころ「さんけんに就職するにはどうしたらいいの」と尋ねた。最近では認定NPOの認定申請の準備に携わった。「何かあったとき、行って癒されようと思える三段峡になってほしい」と願う。次世代へつなぐ活躍が期待される。　（宏）